



梅雨に入りましたね。晴れ間や気温をみて園庭へ出ると、虫探しに夢中の子どもたち。ゆき組はダンゴ虫を捕まえて、お部屋でお世話をしています。玄関前には、すいか小規模保育園からいただいたカタツムリや、つき組の子どもたちが捕まえたトカゲが・・・毎日観察を楽しんでいる子どもたちです。

生き物とふれあう

生き物に向き合って学ぶ

自分とは違う、多様な存在に心を寄せる

子どもが生き物に出会う場所はさまざまです。見上げるほど大きな動物がいる一方で、手のひらにのるほど小さな虫がいて、飛んだり跳ねたりそのそ動いたり…、自分とは違う多様な姿は、子どもたちにとって魅力てきな存在です。

どんな意味があるの？

生き物とふれあう時、子どもは自分を相手に合わせることになります。不用意に手を出しては危険であったり、よく見ていなければ捕まえることができなからります。相手に関心を寄せ、よく見て、心を寄せ、時を共有しようと試みる、その姿勢には大人も学ぶところがあるほどです。



子どもの
好奇心を
見守る



アリんコの行列を見ていた子どもが、アリを捕まえて潰してしまったり、はたまた、アリの巣を水攻めにしてしまったり…。こんな時、小さな頃にあまり虫とふれあったことのないお父さん・お母さんは思わずギョッとして、子どもを怒ってしまったりするかもしれません。でも、これは好奇心旺盛な子どもにはよくあること。あまり大ごとを考えずに、おらかな気持ちで見守ってあげましょう。

非認知能力を育てるあそびのレシピ

大豆生田啓友・大豆生田千夏